

港区立白金の丘中学校
令和元年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

国語	区の学力調査により、7年生は「話すこと・聞くこと」の領域において課題がみられた。8年生は、「言語に関する知識理解」の領域において課題が見られた。また、9年生は、「説明文の内容を読み取る」観点で「文章の構成や展開をとらえること」「文章の展開に即して、要旨をとらえること」において、課題が多く見られる。どの学年にも共通して見られるのは、漢字の読み書きの定着が十分とはいえないこと、「話すこと・聞くこと」に対して苦手意識があることである。反復練習や習慣化を図れるように、指導していく必要がある。
社会	区の学力調査から、7年生は目標値に対して、全体としてのスコアがやや低く、社会的な事象に対する興味・関心を引き付けつつ、知識・理解の定着を図る必要が課題として見られた。8年生は、目標値を上回っているが、「世界各地の人々の生活と環境」・「世界の地域構成」「世界の諸地域」のスコアがやや低く、「古代までの日本」のスコアが高い。これは、学習した時期から時間が経過すればするほど、学習内容の知識が薄れてしまっている傾向を示している。9年生は、スコアが非常に高く、様々な反復学習や小テスト、ICT教材の活用成果の現れである。これらの結果から、7年生の時から反復学習を丁寧に行い、8年・9年生へと段階を追って、知識の定着と活用能力・思考判断力を高めていくことが重要であると考えられる。
数学	区の学力調査では、全体として概ね目標値に達していた。しかし、7年生は「数と計算」、8年生は「数と式」「関数」の領域において課題が見られた。また、9年生では「連立方程式」の分野が目標値より3.5ポイント低かった。さらに、8年生、9年生については「基礎」と比べて「活用」の平均正答率が低い。そのため、引き続き基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、授業内でそれらを活用する場面を意図的に増やすことが必要であると考えられる。
理科	7、8年生は「科学的な思考・表現」と「活用」の領域において課題が見られる。9年生は「地球」の単元に課題があり、とくに前線のでき方や飽和水蒸気量から湿度を求める問いなど、基本的な知識の定着の低さが見られた。どの学年も、「自然事象への関心・意欲・態度」は高いことから、理科に関する興味があることがうかがえる。しかしながら、理科に関する事象を「知識・理解」としてとらえ、「活用」することに苦手意識があることが分かった。授業において、日常生活と関連付けながら指導し、知識・理解につなげる授業展開が効果的であると考えられる。
外国語	英単語のつづりを正確に書くことに課題がある。フォニックスを活用し、音と文字をつなげていく必要がある。また、動名詞や不定詞等のやや難解の文法事項の理解度が低い。全国学力調査の結果、長文の英問英答の正答率が低いことから、英語の質問に対し、文で答えることが苦手であることがわかる。普段の授業では、教師の質問に対し、文で答える練習が必要である。また、WH 疑問文の場面に応じた使い分けに課題が残る。授業では、英語の会話の際バリエーション豊かな英語の質問ができるよう指導していく。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読む能力の育成 ・ 話す・聞く能力の育成 ・ 言語についての知識・理解・技能の育成 	<p>文章から人物の心情を読み取ると共に、読み取った内容を文章化する活動を通して読む能力を養う。</p> <p>自分の意見を相手に効果的に伝えるためにはどのように内容を工夫したらよいかを考えながら話し合い活動を行う。また話し合い活動を個人からグループ、さらに全体へという形で行うことで、互いの意見や考えを発表し、自分の意見を深めていけるように指導、支援していく。</p> <p>漢字や文法などについては、練習用のプリントやワークなどを用いての反復練習、小テストを行うことで、言語についての知識理解を図る。</p>

社会	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着 ・資料活用能力の向上 ・思考判断表現力の向上 	<p>様々な小テストを実施したり、「人物かるた」や「人権カード」などの教材教具を工夫し反復学習を行ったりすることで、知識の定着を図る。また、7年・8年・9年と学習していく中で、地理・歴史・公民の3分野の関連性を大切にして学習を進めていく。授業プリントや作業プリント、ICT教材を活用して、資料活用能力や思考判断表現力の向上を図る。</p>

数学	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能 ・数学的な見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力 	<p>各単元の導入でレディネステストを実施することで生徒の実態を丁寧に捉え、全学年、全クラスで習熟度別少人数授業を行う。また、授業の中で知識や技能を享受する場面と、生徒の主体的な活動や対話的な活動を取り入れる場面を意図的に使い分けることで深い学びへの到達を目指す。</p>

理科	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象を理科の知識としてとらえ、理解する能力の育成 ・実験結果を正しく読み取り、自ら考察し、表現する能力の育成 	<p>定期的に宿題や小テストを課すことで、家庭学習の時間を増やし、反復と定着を図る。特に基礎知識や作図は、全員が定着できるまで補習を実施するなど、きめ細かな指導を行う。</p> <p>実験・観察では、結果を表やグラフに整理して分析・考察し、班ごとに発表しあい、自分の考えを見直す。</p>

音楽	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動を通して、知識や技能を得ながら創意工夫する力。 ・「思考力」「表現力」の関係性を大事にした音楽の力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動では、歌詞の意味を理解し、自分の思いをどう伝えていくかグループで話し合う場を設定していく。さらにその思いを表現できるように工夫する。 ・鑑賞では、その曲の良さを自分の言葉で紹介文を書くことで作曲者への思いを深めることにつなげていく。

美術	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動や鑑賞を通して、基本的な技法を習得する。 ・普段の生活の中での美術やデザイン、伝統文化の関わりを発見し、主体的な意思をもって創作する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動では、自分の好きなものや生活体験と結び付けた題材を用いることで主体的な創作意欲を掻き立てる。色彩の特性や効果などを学習し、その内容を創作体験として自らの表現に取り入れられる課題を設定する。 ・鑑賞では、実物的な美術の鑑賞の場を生かし、伝統文化への理解を深めることにつなげる。

保健体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動を通して、ルールへの順守や仲間との協力を通して基本的な運動習慣、並びに規範意識を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目において毎回ミニゲームを行い楽しみながら基本的な運動習慣を確立していく。学習カードやチームカードなどを使い、仲間と協力して一つの課題を解決していく能力を養う。リーダーの育成やフォロワーの育成も保健体育の身体活動の中で養っていくべき課題である。 また、オリンピックパラリンピックの社会的必要性についても考える機会を設ける。

技術・家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力をはぐくむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を活用し、生徒が興味関心持つような授業を心がける。 また、1時間ごとの目標や、授業内での課題を明確にし、生徒にとって分かりやすい授業を展開していく。一方的な授業にならないように、ねらいを明確にした話し合いの場面をより多く設定していく、達成感や充実感がある授業を行っていく。

外国語(英語・国際)	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・文を正確に書く能力の育成 ・聞き取った情報や読み取った情報を統合する能力の育成 ・会話を続ける力 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の帯活動で単語の反復学習をする。定期的な単語の小テストを行う。 ・多様なリスニング問題や長文問題に取り組む。 ・帯活動の1分会話の際、どのように会話を広げるべきか、振り返りの時間を作る。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面において善悪を判断する能力。 ・道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情 ・道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業における内容項目である道徳的価値について意識・理解をさせる。 ・生徒が教科書・資料の人物等に自己関与するなど、自己を自分の言葉で考えたり、話し合ったりする授業を行っていく。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考え行動する力。 ・委員会や学級会等の話し合い活動で、相手の考えを受け入れる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事について見通しを持って計画を立て、行動できるように指導していく。さらに学校のために、自分ができることは何か考える機会をつくる。 ・自分の考えを表現できることに自信を持たせながら、多くの考え(解決方法)があることの良さや、人の考えを受け入れる大切さを感じられるように指導していく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとに、学年テーマから個人テーマを設定し、探求、まとめ、発表を行う。 ・生徒が主体的に取り組むとともに、対話的な活動の中で考えを深めることができるよう、ICTを中心とした環境整備に力を入れる。